

表 14-1 2017年フランスでの政治-イデオロギー対立: 4つに別れた有権者

2017年大統領選 (1巡目)	全有権者	メランション/アモン (「平等主義-国際主義」に投票)	マクロン (「不平等-国際主義」に投票)	フィヨン (「不平等主義-自国主義」に投票)	ル=ペン/デュポン=エニャン (「平等主義-自国主義」に投票)
	100%	28%	24%	22%	26%
「フランスには移民が多すぎる」(賛成比率)	56%	32%	39%	62%	91%
「社会正義のため、金持ちから奪って貧困者に与えるべきだ」(賛成比率)	51%	67%	46%	27%	61%
高等教育卒業生 (%)	33%	39%	41%	36%	16%
月収 > 4000€ (%)	15%	9%	20%	26%	8%
持ち家 (%)	60%	48%	69%	78%	51%

解釈：2017年に一巡目の投票者28%がメランション/アモンに投票：32%はフランスに移民が多すぎと考えた（全有権者だと56%）また67%は金持ちから取って貧困者に与えるべきと考えた（全有権者だと51%）。ここからこの有権者群はイデオロギー的に「平等主義-国際主義」と言える。マクロンへの投票者は「不平等主義-国際主義」（移民支持、金持ち支持）、フィヨンへの投票者は「不平等主義-自国主義」（反移民、金持ち支持）で、ル=ペン/デュポンへの投票者は「平等主義-自国主義」（反移民、貧困者支持）だ。注：アルトール/プー支持（2%）とアスリノ/シュミナード/ラサール（2%）は、メランション/アモンとフィヨンに算入。出所と時系列データ: [piketty.pse.ens.fr/ideology](http://piketty.pse.ens.fr/ideology) 参照。